

2月



あの日のあの川 リレー日記 ～第66話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第66話主人公 熊谷陽人

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：大分県乙津川)

「犬飼名物どんこ釣り大会」

いつのこと？： 小学校低学年

どこの川？： 大野川

皆様こんにちは。坂井君からバトンを受け取りました筑波大学白川研究室の熊谷陽人です。私は幼い頃から地元大分の豊かな自然に触れてきたおかげで、水辺に関する多くの思い出があります。というのも、釣り好きな父の影響で海や川によく連れて行ってもらうちに、自分自身も水辺や自然の魅力にどっぷりとはまっていきました。今でも釣りは私の趣味であり、帰省する際の一つの楽しみとなっています。特に大分の佐賀関半島と愛媛の佐田岬の間には非常に潮の流れが速い豊後水道が通っているため好漁場として知られており、大分では堤防からも多種多様な魚を釣ることができます。春夏はメバルやキス、秋冬はアオリイカ、太刀魚、青物等というように季節ごとに美味しい魚が岸边によってくるため、年中多くの釣り人でにぎわっています。

バトンを受け取った際、釣りや水辺に関するエピソードはいくらでもあるので、どの話を書こうか非常に迷ったのですが、今回は特に思い出に残っている大野川のどんこ釣り大会について述べようと思います。どんこ釣り大会は、大分県豊後大野市で毎年5月5日のこどもの日に開催され、「どんこ」と呼ばれるユニークな顔をしたハゼの一種を釣るイベントです。昭和4年に開始され、現在に至るまで70年以上も続いています。大会が開かれる時期には鯉のぼりならぬどんこのぼりが川沿いに掲げられ、その光景は地域の風物詩となっています。大会とはいっても決して仰々しいものではなく、様々なイベントも開催され家族連れでも楽しめる一種のお祭りのような印象です。

私の父も子供の時に参加していたようで、その思い出をよく聞いていました。当時は悪知恵を働かせて、釣れたどんこの口の中に砂利を詰めて計量時の魚の重さをごまかそうとしたエピソードなどは特に印象に残っています。(もう時効として許してあげてください笑)

父の世代が子供時代から楽しんできたこのどんこ釣り大会ですが、私も小学校低学年の頃に家族と一緒に初めて参加しました。河原に釣り座を構え、虫エサのついた竹竿を持って張り切って臨みました。目標は大量に釣って景品を持ち帰ることだったのですが、場所が悪かったのか腕が足りなかったのか、ほんの数匹程度しか釣ることができませんでした。当時の自分は釣りに対しては非常に負けず嫌いで、思うように釣れず泣きそうになりながら竿を握っていたことを覚えています。

しかしながら、どんこ釣り大会はこれだけでは終わりません。もう一つの大きなイベントである、小学生以下限定の「うなぎの掴み取り」が実施されます。子供用プールの外から捕まえるといった小規模のものではなく、膝くらいの深さの約20m四方のプールの中に子供たちが入り込んで、放流されたうなぎをひたすら追いかけて捕まえるといったものです。私は姉と一緒に参加しました。開始とともに大量のうなぎが放流され子供たちが一斉に飛び込みます。しかしながら、ぬめりがすごいうなぎを子供の小さな手で握るとするのは至難の業で、想像以上に難しいのです。結局私たちは制限時間内にうなぎをつかむことができませんでした。どんこに続いてボウズ(獲物が獲れないこと)となった私はあまりの悔しさに大号泣してしまいました。本当は1度しか参加できないのですが、あまりに落ち込んでいる様子を見兼ねた運営スタッフのおじさんがこっそりと「もう一回やってきよ！」と声をかけてくれて特別に再挑戦させてもらえることになりました。改めて姉と共に、開始のスタートと同時にうなぎのいるプールに飛び込みました。子供たちはうなぎを追いかけて縦横無尽にプール内を駆け回ってしまうため、どうしてもうなぎは散ってしまいます。今回もだめかと思った時にプールサイドにいた父が「コーナーに行け！」と声をかけてきました。言われるがままにプールのコーナーに走っていくと、逃げ場を失ったうなぎが追い込まれていきます。一回目でうなぎをつかむことは無理だと学んでいたため、今回は角に追い込まれたうなぎを両手ですくうようにしてプールサイドに投げ飛ばしました。そこに袋を持って構えていた姉がうなぎを入れて見事捕まえることができました。結局4匹ほど捕獲することができました。予想外の連係プレーに両親や周りのギャラリーが爆笑していたのを覚えています。家に帰ってからBBQで捕まえたうなぎを蒲焼にして食べ、結果的にどんこ釣り大会は非常に楽しかった思い出となりました。

今考えると、このような自然で遊ぶ機会を与えてくれた家族や、子供が自然の中で楽しめるイベントを長年に渡って支えて下さっている運営の方々、うなぎ掴みを再挑戦させてくれたおじさんなどには感謝の気持ちでいっぱいです。それと同時に、自然と人との結びつきが減少している昨今において、どんこ釣り大会のような地域の特色を活かした風物詩がこれからも残り続けてほしいものだなと感じました。

(次は藪和史さんにバトンを託します)